

令和2年度前期学校評価集計結果(教職員)

| 定量的評価 | | A よくできている | B だいたいできている | 『A+B』 | C あまりできていない | D できていない | E 無回答 | R元年度末 A+B | 『A+B』の 30年度末比改善率 |
|-------|---|--------------|----------------|-------|----------------|-------------|----------|--------------|---------------------|
| 1 | 児童生徒は、楽しく意欲的に学んでいる。 | 15 | 22 | 100% | 0 | 0 | 0 | 100% | ポイント |
| 2 | 児童生徒の基本的学力、生活力、豊かな心情は向上している | 8 | 27 | 95% | 1 | 0 | 1 | 100% | -5ポイント |
| 3 | 教職員と児童生徒との取り組みは、合言葉「明るく・強く・がんばる子」を反映している。 | 13 | 23 | 97% | 1 | 0 | 0 | 100% | -3ポイント |
| 4 | 保護者は学校の教育目標、学級の目標及び個人の目標を理解している。 | 9 | 24 | 89% | 3 | 0 | 1 | 100% | -11ポイント |
| 5 | 年間指導計画等を適切に作成することにより、授業時数を確保し計画的に指導を行っている。 | 10 | 23 | 89% | 3 | 0 | 1 | 100% | -11ポイント |
| 6 | 指導方法の工夫・改善を図り、楽しくわかりやすい授業を行っている。 | 13 | 22 | 95% | 1 | 0 | 1 | 100% | -5ポイント |
| 7 | 児童生徒の実態把握・指導に関して、教職員は共通理解を図っている。 | 13 | 23 | 97% | 1 | 0 | 0 | 100% | -3ポイント |
| 8 | 個別の教育支援計画・個別の指導計画は、児童生徒及び保護者の願い及び教育的ニーズを反映している。 | 10 | 23 | 89% | 4 | 0 | 0 | 100% | -11ポイント |
| 9 | 保護者・病院職員に対して丁寧（親切）に対応している。 | 23 | 13 | 97% | 0 | 0 | 1 | 100% | -3ポイント |
| 10 | 学級だより、学校だより及び通知表等は児童生徒の様子や学校の情報を適切に伝えている。 | 20 | 16 | 97% | 1 | 0 | 0 | 100% | -3ポイント |
| 11 | 保護者面談及び病棟懇談会から得た児童生徒に関する情報を有効に活用している。 | 14 | 19 | 89% | 4 | 0 | 0 | 100% | -11ポイント |
| 12 | 児童生徒に望ましい生活習慣が身につくように指導している。 | 13 | 24 | 100% | 0 | 0 | 0 | 100% | ポイント |
| 13 | 児童・生徒の実態や特性に応じた生徒指導を行っている。 | 17 | 20 | 100% | 0 | 0 | 0 | 100% | ポイント |
| 14 | 児童・生徒間のコミュニケーション・交流は十分にとれている。 | 8 | 19 | 73% | 10 | 0 | 0 | 97% | -24ポイント |
| 15 | 児童生徒への進路に関する情報提供は適切である。 | 13 | 23 | 97% | 1 | 0 | 0 | 100% | -3ポイント |
| 16 | 体験学習(進路体験等)は児童生徒の卒業後を見据えたものになっている。 | 13 | 22 | 95% | 0 | 1 | 1 | 100% | -5ポイント |
| 17 | 児童生徒及び教職員の個人情報を適切に管理している。 | 25 | 12 | 100% | 0 | 0 | 0 | 97% | 3ポイント |
| 18 | 円滑な学校運営のための連絡・調整は適切である。 | 10 | 27 | 100% | 0 | 0 | 0 | 97% | 3ポイント |
| 19 | 会議内容は充実しており、年間を通して会議を精選している。 | 7 | 23 | 81% | 6 | 0 | 1 | 91% | -10ポイント |
| 20 | 日頃から、服務にあたっては信頼されるよう努めている。 | 19 | 18 | 100% | 0 | 0 | 0 | 97% | 3ポイント |
| 21 | 施設設備の整備を適切に行い、安全を確保している。 | 25 | 12 | 100% | 0 | 0 | 0 | 97% | 3ポイント |
| 22 | 教室環境は安全で清潔である。 | 21 | 16 | 100% | 0 | 0 | 0 | 100% | ポイント |
| 23 | 児童生徒の心身の健康保持増進のため、健康管理(健康診断・感染症の予防等)や救急体制の整備を行っている。 | 23 | 14 | 100% | 0 | 0 | 0 | 100% | ポイント |
| 24 | 災害時や緊急時の迅速な対応のため、マニュアルの整備、防災・不審者対応訓練等を適切に行っている。 | 23 | 14 | 100% | 0 | 0 | 0 | 100% | ポイント |
| 25 | 医療的ケアに関して看護師との連携は十分にとれている。 | 23 | 12 | 95% | 1 | 0 | 1 | 100% | -5ポイント |
| 26 | 安心・安全な給食を提供し、実態に応じた給食指導をしている。 | 21 | 14 | 95% | 0 | 0 | 2 | 100% | -5ポイント |
| 27 | 児童の送迎バスへの乗降については十分な安全配慮をしている。 | 23 | 10 | 89% | 1 | 0 | 3 | 100% | -11ポイント |

令和2年度後期学校評価集計結果(教職員)

| 定量的評価 | | A よくできている | B だいたいできている | 『A+B』 | C あまりできていない | D できていない | E 無回答 | R元年度末 A+B | 『A+B』の 30年度末比改善率 |
|-------|---|--------------|----------------|-------|----------------|-------------|----------|--------------|---------------------|
| 1 | 児童生徒は、楽しく意欲的に学んでいる。 | 12 | 25 | 97% | 1 | 0 | 0 | 100% | -3ポイント |
| 2 | 児童生徒の基本的学力、生活力、豊かな心は向上している | 10 | 26 | 95% | 2 | 0 | 0 | 100% | -5ポイント |
| 3 | 教職員と児童生徒との取り組みは、合言葉「明るく・強く・がんばる子」を反映している。 | 14 | 24 | 100% | 0 | 0 | 0 | 100% | ポイント |
| 4 | 保護者は学校の教育目標、学級の目標及び個人の目標を理解している。 | 6 | 32 | 100% | 0 | 0 | 0 | 100% | ポイント |
| 5 | 年間指導計画等を適切に作成することにより、授業時数を確保し計画的に指導を行っている。 | 9 | 25 | 89% | 4 | 0 | 0 | 100% | -11ポイント |
| 6 | 指導方法の工夫・改善を図り、楽しくわかりやすい授業を行っている。 | 11 | 27 | 100% | 0 | 0 | 0 | 100% | ポイント |
| 7 | 児童生徒の実態把握・指導に関して、教職員は共通理解を図っている。 | 9 | 27 | 95% | 2 | 0 | 0 | 100% | -5ポイント |
| 8 | 個別の教育支援計画・個別の指導計画は、児童生徒及び保護者の願い及び教育的ニーズを反映している。 | 14 | 22 | 95% | 1 | 0 | 1 | 100% | -5ポイント |
| 9 | 保護者・病院職員に対して丁寧（親切）に対応している。 | 21 | 16 | 97% | 1 | 0 | 0 | 100% | -3ポイント |
| 10 | 学級より、学校および通知表等は児童生徒の様子や学校の情報を適切に伝えている。 | 22 | 16 | 100% | 0 | 0 | 0 | 100% | ポイント |
| 11 | 保護者面談及び病棟懇談会から得た児童生徒に関する情報を有効に活用している。 | 15 | 22 | 97% | 1 | 0 | 0 | 100% | -3ポイント |
| 12 | 児童生徒に望ましい生活習慣が身につくように指導している。 | 12 | 24 | 95% | 2 | 0 | 0 | 100% | -5ポイント |
| 13 | 児童・生徒の実態や特性に応じた生徒指導を行っている。 | 16 | 22 | 100% | 0 | 0 | 0 | 100% | ポイント |
| 14 | 児童・生徒間のコミュニケーション・交流は十分にとれている。 | 6 | 18 | 63% | 14 | 0 | 0 | 97% | -34ポイント |
| 15 | 児童生徒への進路に関する情報提供は適切である。 | 14 | 22 | 95% | 2 | 0 | 0 | 100% | -5ポイント |
| 16 | 体験学習(進路体験等)は児童生徒の卒業後を見据えたものになっている。 | 11 | 23 | 89% | 2 | 2 | 0 | 100% | -11ポイント |
| 17 | 児童生徒及び教職員の個人情報を適切に管理している。 | 21 | 17 | 100% | 0 | 0 | 0 | 97% | 3ポイント |
| 18 | 円滑な学校運営のための連絡・調整は適切である。 | 11 | 26 | 97% | 1 | 0 | 0 | 97% | ポイント |
| 19 | 会議内容は充実しており、年間を通して会議を精選している。 | 5 | 30 | 92% | 3 | 0 | 0 | 91% | 1ポイント |
| 20 | 日頃から、服務にあたっては信頼されるよう努めている。 | 16 | 22 | 100% | 0 | 0 | 0 | 97% | 3ポイント |
| 21 | 施設設備の整備を適切に行い、安全を確保している。 | 19 | 19 | 100% | 0 | 0 | 0 | 97% | 3ポイント |
| 22 | 教室環境は安全で清潔である。 | 20 | 17 | 97% | 1 | 0 | 0 | 100% | -3ポイント |
| 23 | 児童生徒の心身の健康保持増進のため、健康管理(健康診断・感染症の予防等)や救急体制の整備を行っている。 | 22 | 16 | 100% | 0 | 0 | 0 | 100% | ポイント |
| 24 | 災害時や緊急時の迅速な対応のため、マニュアルの整備、防災・不審者対応訓練等を適切に行っている。 | 19 | 19 | 100% | 0 | 0 | 0 | 100% | ポイント |
| 25 | 医療的ケアに関して看護師との連携は十分にとれている。 | 21 | 15 | 95% | 1 | 0 | 1 | 100% | -5ポイント |
| 26 | 安心・安全な給食を提供し、実態に応じた給食指導をしている。 | 18 | 17 | 92% | 0 | 0 | 3 | 100% | -8ポイント |
| 27 | 児童の送迎バスへの乗降については十分な安全配慮をしている。 | 21 | 13 | 89% | 0 | 0 | 4 | 100% | -11ポイント |

令和2年度 学校評価集計結果（保護者）

| 評価項目 | A よくでき ている | B だいたい できている | 『A+B』 | C あまりでき ていない | D できていな い | E わからない | 『A+B』の 令和元年度末比 改善率 |
|--|------------------|--------------------|-------|--------------------|-----------------|------------|--------------------------|
| 1 お子さんは、自分の学級・学校生活が楽しいと言って(感じて)いる。 | 15 | 3 | 82% | 1 | 0 | 3 | -2ポイント |
| 2 お子さんは授業が楽しく分かりやすいと言って(感じて)いる。 | 13 | 5 | 82% | 1 | 0 | 3 | -2ポイント |
| 3 お子さんは、確かな学力・生活力・豊かな心情が身につけてきてい | 9 | 8 | 77% | 2 | 0 | 3 | 9ポイント |
| 4 お子さんは、学校外でも望ましい生活習慣(自分からあいさつをする/規則正しい生活をする/ルールを守るなど)で過ごしている。 | 5 | 11 | 73% | 2 | 2 | 2 | -1ポイント |
| 5 先生は、お子さんのことをよく理解し、親身に相談に応じたり、一人一人を大切にされた指導やかかわり方をしている。 | 17 | 5 | 100% | 0 | 0 | 0 | 11ポイント |
| 6 教職員には、気軽に話しかけたり、相談できる雰囲気がある。 | 18 | 2 | 91% | 0 | 0 | 2 | -4ポイント |
| 7 懇談会などで、個別の指導目標や指導の結果・児童生徒の姿容などを分かりやすく説明している。 | 16 | 4 | 91% | 0 | 0 | 2 | 2ポイント |
| 8 個々の進路や卒業後の生活に関する情報提供や指導を適切に行っている。 | 8 | 6 | 64% | 1 | 0 | 7 | -15ポイント |
| 9 児童生徒の様子や学校の情報が、学級通信・個別面談・連絡帳・通信表・学校だより(紅堂)等により、伝わっている。 | 17 | 5 | 100% | 0 | 0 | 0 | 5ポイント |
| 10 児童生徒が安心・安全・快適に学校生活が送れるように、環境整備(安全点検と修理等)と危機管理(避難訓練等)に取り組んでいる。 | 16 | 3 | 86% | 0 | 0 | 3 | 2ポイント |

文章記述

| | | |
|------|--|--|
| 1 | お子さんは、自分の学級・学校生活が楽しいと言って(感じて)いる。 | ・家でも学校の様子を話します。・正直分からないが、楽しさは伝わってくる。・学校の話は全くしてくれない。 |
| 2 | お子さんは授業が楽しく分かりやすいと言って(感じて)いる。 | ・療護センターの職員より、先生の指導で勉強になったと言ってました。・聞いても教えてくれない。 |
| 3 | お子さんは、確かな学力・生活力・豊かな心情が身につけてきてい | ・身の回りのことなど(着脱衣、靴)上手になっています。・Dコースのため学力は該当外。 |
| 4 | お子さんは、学校外でも望ましい生活習慣(自分からあいさつをする/規則正しい生活をする/ルールを守るなど)で過ごしている。 | ・散歩や通院の折など自分から他の人たちに声かけをします。・療護センターではプライマリーさんより良い評価を得た。・Dコースのため施設生活に委ねられている。 |
| 5 | 先生は、お子さんのことをよく理解し、親身に相談に応じたり、一人一人を大切にされた指導やかかわり方をしている。 | ・受傷の経緯等、親身に傾聴して下さった。 |
| 6 | 教職員には、気軽に話しかけたり、相談できる雰囲気がある。 | ・先生方が大好きで、自分から話しかける様子が見られる。・挨拶が軽快で話しやすい。 |
| 7 | 懇談会などで、個別の指導目標や指導の結果・児童生徒の姿容などを分かりやすく説明している。 | ・懇談会にまだ参加していないため。 |
| 8 | 個々の進路や卒業後の生活に関する情報提供や指導を適切に行っている。 | ・まだ相談したことがないです。・まだ先のことなので、よく分かりません。・卒業後の進路について知らなかったことを教わり、活路を見い出せた。 |
| 9 | 児童生徒の様子や学校の情報が、学級通信・個別面談・連絡帳・通信表・学校だより(紅堂)等により、伝わっている。 | ・本人の様子は連絡帳等でしか知るすべがないのでありがたい。 |
| 10 | 児童生徒が安心・安全・快適に学校生活が送れるように、環境整備(安全点検と修理等)と危機管理(避難訓練等)に取り組んでいる。 | ・避難訓練の折、先生に抱っこしてもらったことを話してくれます。 |
| 自由記述 | <p>・新型コロナウイルスの流行で大変ですが、親身になってご指導いただいているようでありたいです。これからもよろしくお願ひします。・先生の努力に感謝しています。よろしくお願ひします。・現状で満足しています。本人が一番楽しく日々を過ごしてもらいたいと思うので、今後(卒業後)も先生方と交流できるとよいと思います。・リモート学習ご苦労様です。ちょっとの時間でもいいので、回数を増やしてもらいたいです。</p> | |

評価結果の分析と改善策

1. 成果と課題の整理

自己評価は7月（前期）及び1月（後期）に実施した。前期のアンケート対象者は職員のみである。

年度末評価（後期）について前年度と比較すると、個人情報適切な管理や会議の精選、施設設備の整備などにおいて前年度より肯定的な評価の割合が高く、一定の成果が見られた。しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、「児童・生徒間のコミュニケーション・交流は十分とれている。」の項目で、前年度と比べ特に低い数値になっている。その理由として「直接的な交流が難しく、オンライン等工夫はしたものの、十分とは言えない。」「感染防止の観点で必要最小限の関わりをしているため、以前よりコミュニケーションや交流をする機会が減ってしまっている。」といった意見が出された。また、学校の臨時休業に伴い、様々な行事が中止になったことで「年間指導計画を適切に作成し、授業時数を確保して計画的に指導を行っている。」「体験学習（進路体験等）は児童生徒の卒業後を見据えたものになっている。」といった項目でも低い数値になっており、コロナ禍の臨時休業や感染対策を優先した新しい生活様式が、自己評価に大きく影響したと言える。

自己評価の結果からは、本校の教育目標及び本年度努力事項に対する取組は、こういった状況下で努力はしたものの、十分に目標を達成できているとは言えず、改善の余地があると考えられる。

2. 改善策と今後の取組

課題に対する改善策を各学部、各分掌部で話し合い、学校評価全体会で情報共有し、次年度にしっかり引き継いでいくことを確認した。

児童生徒の交流の場の設定に関しては、感染状況を見極めながら、対策を十分に行った上で、朝会での交流や生徒会が関わる行事等で意識して場を設定していくことを共通理解した。また、体験学習に関しても、例年の方法にとらわれず、そのときの状況に合わせてできることに取り組んでいくこととした。ほかにも、児童生徒への進路に関する情報提供について、進路指導部内で進路種ごとに業務分担し、効率的に仕事が進められるように工夫したり、担任が見通しをもって指導できるように、年度始めに進路指導の具体的な計画を提示したりすることについて、進路指導部から提案された。

また、重点目標に関しては、外部専門家と連携した支援技術の向上を目指し、専門家活用事業の取組を職員全体に報告する機会を設け、関わっていない教員にも取組について知る機会をもつことが大切であるという意見が出された。校内研究に関わる「カリキュラム・マネジメントによる授業の評価と改善」については、單元ごとの評価における反省から、日々の指導記録を授業改善に生かす取組について事例研究の中でそれぞれがまとめ、方向性を決めていく案が出された。センター的機能に関しては、特に心身症、精神疾患の子供への教育支援について、現状を維持できるように取り組むとともに、今後も幅広く柔軟に対応し、様々なニーズのある子供に支援ができるようにすることを確認した。これらの改善策をしっかりと具体化して、実行に移していくようにする。

保護者アンケートの結果からは、進路に関わる情報提供に対して、学部を問わず参加できるような進路研修会の企画や進路だよりの充実に入力していくことが提案された。また、入院中で登校できない生徒の保護者から、オンライン学習を増やしてほしいという要望が出された。病院の面会規制や支援体制もあり、現状でできる最大限の支援と認識しているが、今後も病院と連携しながら、感染状況を見極めた上で協力して進めていきたい。